

いつか必ず揺れる



熊本地震の被害を受けた益城町の様子（提供：熊本県益城町）



東日本大震災で発生した津波（提供：岩手県宮古市）



東日本大震災で崩壊した小学校（提供：宮城県栗原市）

忘れてはならない教訓

地震大国、日本。日本の観測史上、震度7の地震は6回発生しており、そのうち3回は、過去8年間に発生しています。

9月6日午前3時8分。北海道胆振地方中東部を震源とする地震が発生し、厚真町で震度7を観測。死者35人、けが人は600人以上で、4千人以上が余震におびえながら避難所で生活しています（9月8日現在）。

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、日本の観測史上最大のM9を記録。大きな揺れと予想をはるかに超える大津波により、死者は2万人近くに上り、今もなお、25000人を超える人が行方不明のままです。また、2016年4月に発生した熊本地震。2500人以上の死者が出たほか、8500棟を超える家屋が全壊しました。大自然の力は計り知れません。その猛威の前に、被害をゼロにすることは難しくても、私たちの行動次第で被害を最小限にすることは可能です。

地震は、ある日突然、私たちに襲いかかります。地震がもたらす被害から生き延びるために、私たちはどのような対策をすればよいのでしょうか。市危機管理課の山崎雅樹課長に話を聞きました。

自助が共助につながる

防災は「自助」が基本です。自分が助からなければ、家族や隣人を助けに行くこともできません。まずは自分の身を守るための備えや、対策をしましょう。

また、日頃から近所の人と良好な関係を築いておくことも重要です。そうすることで災害発生時、円滑な共助の態勢を築くことができるはずです。

公助には限界がある

平成25年6月、静岡県は第4次地震被害想定（第1次報告）を公表しました。発生頻度は極めて低いが、発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した「レベル2」の地震が発生した場合、本市は震度7の揺れに襲われ、死者は最大で約2100人になると想定されています。

災害発生時、消防署、消防団などの公的な防災関係機関は、全力で災害対応にあたります。しかし、その人数は、市の人口